

アニバーサリー・パーティビジネスへの出発

「ディスティノ」の誕生――パーティはアナログ・コミュニケーションの場……………	217
カクテルパーティの重要性――ウエディングの歴史に一石を投じる……………	220
アニバーサリー・パーティハウスへようこそ――ここはウエディング・ハウスではありません……………	223
人と人の絆を強くする――コミュニケーション・プランナーの重要性……………	226
“コンセプト”を守り抜く力――「ディスティノ」開業で見えてきたこと……………	229
アニバーサリー産業――新しいコミュニケーション・ビジネスの可能性……………	223
パーティを新しい産業にする思考……………	20#
ネクスト・インパクト――ニューヨークにおけるビジネス拠点構想……………	236
出会い。人脈。そして、救世主たち……………	20#
乗組員（スタッフ写真）……………	250
あとがき……………	252
著者略歴・奥付……………	256

カバー：装丁／高原宏デザイン事務所・高原宏＋上原加代

執筆協力／川島路人・堂上昌幸

編集／二瓶信一郎

私たち兄弟は小さい頃割烹旅館、そして駅前のホテルに育ち、いつも人が楽しむ姿を日常的に見てきました。宴会場の隣に部屋があり、そこに18年間暮らしていましたので、夕食の時も、勉強する時も、テレビを見ている時も、そしてふとんに入っている時も、いつも宴会場から笑い声と食器の擦れる音が聞こえてきました。週末ともなると結婚式があり、いつも花嫁さんがいました。その頃は花嫁さんに会うのがとても恥ずかしかった。私たちの部屋にはお手洗いがなく、廊下の脇にある宴会場のためのお手洗いを使っていました。お手洗いにいくときは、花嫁さんがいないことを確認して行っていました。花嫁さんがいてお手洗いにいくのを我慢したこともしばしばありました。小学生の頃は夏休みにや春休みにになると暇な平日の昼、兄弟二人で宴会場にダンボールやイス、テーブル、座布団を組み合わせて、秘密基地を作って遊んでいました。友達もたくさん遊びにきては、宴会場で時間が経つのも忘れて遊んでいました。中学生、高校生ともなると友人とバンドの練習を宴会場でしては、親に怒られていました。宴会とパーティー、そして婚礼…。私たちの生活はそんな宴会場の中がありました。そしていつの日か自然に“大人が楽しめる空間を創る”という夢を持つようになりました。誰にも決して真似することの出来ない楽しい空間作り。私たちの秘密基地創りは、今もなお続いています。

第1章

ニューヨークでの生活